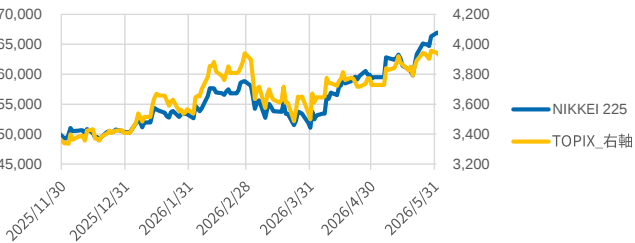
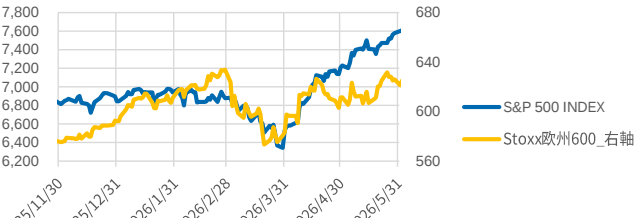


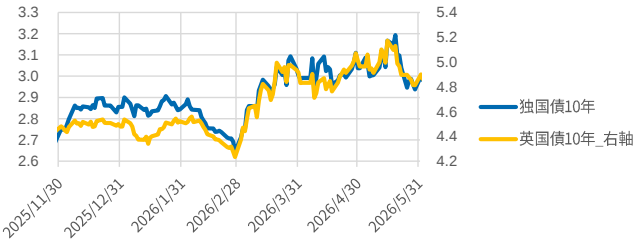
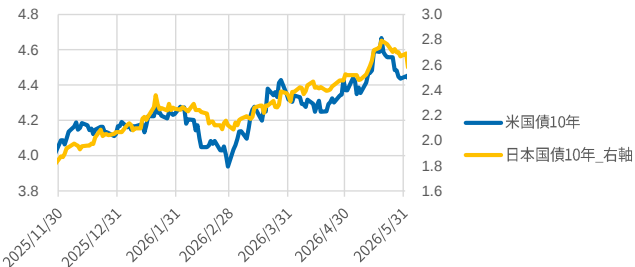
2026年5月の金融市場動向・今後の注目点

2026/6/10

株式	
米国	AIブームと米・イラン「停戦」継続により、最高値更新 S&P500は、月間で約5%上昇し、月末終値で史上最高値を更新。上旬はイランでの戦闘終結期待の高まりによる原油急落が株価上昇の起点となった。その後、インフレ指標の上振れ、金利急騰によって下落する場面もあったが、下旬は60日間の停戦延長報道とAI関連銘柄の決算が好感されたことで上昇トレンドに回帰し、9週続伸となった。
日本	AIデータセンター関連銘柄が牽引し、米欧株比アウトパフォーム。日経平均、TOPIXとも最高値更新 AIデータセンター関連銘柄への資金流入と中東情勢緩和期待を背景に、日経平均は月間で約12%上昇し、月末終値で史上最高値を更新。好調な決算がサプライズとなったキオクシアHDや、下旬に出資先であるOpenAIのIPO具体化観測が流れたソフトバンクGなどが指数を牽引し、米欧株を2ヶ月連続でアウトパフォーム。
欧州	中東情勢緩和により、小幅上昇 Stoxx欧州600は、月間で約2%上昇したものの、日米比アンダーパフォーム。中東情勢緩和期待とAI関連株（独インフィニオン・テクノロジーズ、蘭ASML等）への関心を背景に月間で上昇するも、情報技術セクターのウェイトが日米比低位で、上昇幅は限定的なものに留まった。
注目点	米・イランの停戦交渉の帰趨と原油価格動向を引き続き注視。AI関連では、スペースX（6月12日予定）のIPO（新規株式公開）、オラクル通期決算（6月10日予定）、マイクロン第3Q決算発表（6月24日予定）等に注目。また、金利動向の株式市場への影響波及を警戒。



債券	
米国	インフレ懸念で金利上昇後、中東情勢緩和期待で低下 10年国債利回りは4月末比で上昇。上中旬には中東情勢の緊張を背景とした原油高や米物価指標の上振れにより金利は上昇。5月19日には4.6%台と約1年ぶりの水準を付けた。その後は中東情勢緩和への期待から原油価格が下落し、利上げ観測後退で金利低下。
日本	約30年ぶり水準まで長期金利上昇後、原油安と財政悪化懸念後退から低下 10年国債利回りは4月末比で上昇。月前半は原油高に伴うインフレ懸念や財政悪化への警戒感、日銀利上げ観測が金利上昇要因となった。さらに企業物価指数の上振れを受けて利回りは1996年以来の高水準である2.8%台に到達。後半は原油高の一服でインフレ懸念が後退し、金利は低下した。
欧州	原油高で上昇後、インフレ指標下振れで低下 独10年国債は4月末比で低下。月前半は中東情勢緊迫化による世界的な金利上昇の流れから、約10年ぶりの高水準となる3.2%付近まで上昇。後半は独インフレ指標の予想比下振れや中東情勢緩和による原油安を背景に、ECBの夏以降の追加利上げ期待が後退し金利は約2ヶ月半振りの水準まで低下した。
注目点	中東情勢やそれに伴う原油価格の推移、各国発表の経済指標。6月11日のECB、15～16日の日銀、16～17日のFRBの政策決定会合の内容にも注目。



- 当資料は、情報提供を目的として、CCIアセットパートナーズが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

〔出所〕 bloomberg, CCI アセットパートナーズ